

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立鶴島小学校

1 自己評価書

教育目標						当たり前のことを当たり前に行う児童の育成					
基本方針						一人一人が凡事徹底に努める					
本年度 重点目標						(1)確かな学力を育てる教育の推進 (2)豊かな心を育む教育の推進 (3)健やかな体を育む教育の推進					
評価 項目		評価小項目		評価の観点		評価資料		評価		評価	
確 かな 学 力 の 定 着 と 向 上	①	全国学力・学習状況調査 及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成		A		後期 のみ			
				・具体的な対策の実施		A					
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート		A		B			
				・保護者アンケート		B					
				・児童生徒アンケート		B		A			
				・児童生徒アンケート		A					
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート		A		B			
				・保護者アンケート		C					
				・児童生徒アンケート		B					
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート		A		B			
				・保護者アンケート		C					
				・児童生徒アンケート		B					
	⑤	ふるさと学習及び ESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート		A		A			
				・保護者アンケート		B					
				・児童生徒アンケート		A					
(成果と課題)											
○「ねらい」を明確にし、「振り返り」を適切に行うことにより、児童が学習に見通しを持つことができるようになってきた。											
○10分間集中テストやE-ACT、県学力調査等、集中して学習問題に取り組むことができた。											
●自学ノートの活用はしているが、自己の学力向上に向けての素地づくりには至っていない。											
(改善策等)											
・一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)を活用した学習方法について保護者に分かりやすく説明する。											
・自学や読書を含めた家庭学習(宿題)に変化とゆとりを持たせ、少しでも現状より魅力あるものを目指す。											
・各調査の分析を活用して授業内容を工夫したり、家庭学習につなげたりする。											
評価 項目		評価小項目		評価の観点		評価資料		評価		評価	
生 徒 指 導 の 充 実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート		B		B			
				・保護者アンケート		B					
				・児童生徒アンケート		B					
	②	児童生徒の 健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート		A		A			
				・保護者アンケート		B					
				・児童生徒アンケート		A					
				・教師アンケート		A		B			
				・児童生徒アンケート		B					
				・保護者アンケート		B					
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート		B		B			
				・児童生徒アンケート		B					
				・保護者アンケート		B					
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート		A		B			
				・児童アンケート		B					
				・教師アンケート		A					
・児童アンケート				B							
(成果と課題)											
○児童や保護者に寄り添った声掛けや指導を行うことで、不登校傾向にある児童の登校率が上がってきた。											
○教師が児童を褒めたり、認めたりする場を増やすことで、児童の自己肯定感、自己有用感は向上してきている。											
●教師の思いや指導が児童に届いていないことがある。											
(改善策等)											
・配慮が必要な児童や保護者のニーズに応えながら、ゆっくりと着実に前進していく。											
・引き続き、児童を日頃から「褒める」「認める」とこと、児童と一緒に心から笑うことを教師が率先して行う。											
・学級全体で問題に取り組んだり、関係児童の保護者に適切に事実等を伝えたりする。											

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	A	B
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B		
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
（成果と課題） ○学校長を中心に継続して心理的安全性の高い職場環境を保つことができた。 ○業務改善や超過勤務等に関する研修を行う中で、少しずつではあるが教師の意識が変わってきた。 ●まだまだ教師の過重労働、疲労感が大きく、業務改善は道半ばである。皆、自己の疲弊を隠しながら勤務している。 （改善策等） ・退庁時刻を意識して仕事に取り組むようにする。 ・引き続き研修を深め、教職員の意識改革をさらに前進させる。 ・宇和島市や校長会で考えていただきたいこと等、積極的に具申する。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	A	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
（成果と課題） ○学校運営協議会に対して学校が適切に情報を開示することで熟議することができた。 ○保護者等に寄り添って誠実な態度で電話対応したり、来客対応ができる教職員が多い。 ●学校行事や公民館行事が精選されていく中、地域や公民館と合同で活動することが減ってきた。 （改善策等） ・総合的な学習の時間や生活科、学級活動、家庭科等でturushimaサポーターを募集する。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満